

KANA GAWA ARTS PRESSES

2 & 3 2014

神奈川芸術プレス Vol.116

小林 沙羅

CREATOR'S
VOICE 135

CREATOR'S VOICE 135

小林 沙羅

『神奈川県立音楽堂 スプリング・コンサート』に出演

KAAT × 地点 新作公演 『悪霊』

街道でたどるエリア紹介 ～丹沢・大山エリア～

一緒に。～神奈川県立音楽堂のアウトリーチ活動～

表紙撮影：福里幸夫

奇数月15日発行 [隔月刊]

舞台こそ私の居場所。 自然に自分の中のスイッチが入ります。



ヨーロッパのオペラの現場で学んだこと

—ウィーンにはどのくらいになりますか？

4年になります。歴史や文化が街に浸透していて、まるで呼吸をするようにクラシック音楽を吸収できる街。一流の音楽家が世界中から集まってくるし、演奏会に行くだけでも勉強になります。

—ブルガリアのソフィア歌劇場で素晴らしい経験をなさったそうですね。

はい、2か月ほどいました。最初はブッチーニの『ジャンニ・スキッキ』に出るだけの予定だったのですが、その稽古をしている間に、共演者の方から、「今度プレミエ（新演出）の公演でドニゼッティの『愛の妙薬』のアーディーナ役を探しているんだけど、ぴったりだと思うから音楽監督にきいてみたら？」と言われて。

アーディーナは本当にやりたい役でしたし、『ジャンニ・スキッキ』の指揮者も私を推薦してくださり、監督もちょっと使ってみようかという感じで呼んでくださったのです。

最初は三番手のCキャストで、稽古の間もずっと座って観ているだけでした。最初はそういう立場だということは知らずに行ったので、「私はいつ稽古をつけてもらえるんだろう…」と(笑)。「Aキャストの人はああ動いているけど私だったらこう動きたい」という気持ちがすごくたまっていました。

やがて、初めての音楽稽古のときに、指揮者の先生が「キミ、とってもいいから演出家に話してみるよ」と言って

くださって。それまで私の稽古は演出助手がつけてくださっていたのですが、演出家が観てくださる機会が初めてできました。すると、本番の1週間前なのに急にAキャストに替わることになったのです。

最初演出家に呼ばれたときは、私をAキャストに考えているとは知らされず、いきなり呼ばれて、いきなり歌えと(笑)。まだ発声練習もしていないし、午後にはオーケストラ・リハーサルがあってそこで歌わなければいけないのに、どうしていま急に歌わなければいけないんだろう？と思いました。結果的には認めていただけなので、うれしかったし、いい経験を積めました。私の人生の中でも、つらかったけれど、実り多い時期だったと思います。

—ターニング・ポイントになるような経験でしたか？

そうですね。ソフィア歌劇場は専属歌手もいるし、毎月定期的にオペラを公演しているところですから、そういう世界のスタンダードである劇場で、歌手がどういう仕事の仕方しているかを目の当たりすることができました。これから自分がオペラとどのようにかわかっていこうかということを考える上でも、大きな契機だったかなと思います。

—日本でのオペラ・プロジェクトとはずいぶん違うことも多かったでしょう？

はい。こんなことってあり？みたいなこともたくさんあって(笑)。演出家が本番の3日前になって急に大掛かりに演出を変えても、歌手も慣れたもので、パッと対応するんです。どんなことにも、臨機応変に対応できるって大事なことなんだなと思いました。実際そのときも、変える前よりも、変えた後のほうが、よくなりましたから。

言葉を大切に歌いたい

—バロックから日本歌曲まで、レパートリーが広いですね。レパートリーの選択について歌の先生から慎重にするように言われませんか？

そういう意見もあるかと思うのですが、私の場合は、いろいろなものを歌える声みたくて、いままでついていた先生方はみな止めないんです。私が「これは合わないでしょうか？」とかがうと、「できると思う」と言われることが多いのです。

ある先生からは「オペラだけでなく、宗教曲も歌える声だから歌っていきなさい。その方があなたの声のためにはいいだろう」と言われました。それがずっと頭に残っています。

—身体を動かすことも得意なようですね。

クラシックバレエは5歳から17歳までやっていました。バレリーナになりたいと思った時期もあったくらい本気でした。日本舞踊も17歳くらいまでやっていました。バレエはいつも鏡を見ながら踊って、人にどう見られるかを考えて動くので、それが無意識のうちに入っているところは、バレエをやっていてよかったなと思います。

—歌を始めたのは？

17歳までは、音楽の勉強はしていませんでした。小さいころから歌うことは大好きで、小学校の合唱では、ソロの部分を歌うことも多かったです。だからといって歌手になるとは思っていなかったのです。

でも舞台は昔から好きで、舞台に乗ると自分の中の

ソプラノ歌手 小林沙羅

『小林沙羅(ソプラノ)・藤木大地(カウンターテナー) 新ヴィヴァルディ合奏団 スプリング・コンサート』

3月13日(木) 13:00開演

神奈川県立音楽堂

出演:小林沙羅(ソプラノ) 藤木大地(カウンターテナー)
新ヴィヴァルディ合奏団

プログラム(予定)

シューベルト:アヴェ・マリア グリーク:ソルヴェイグの歌

早川正昭:日本の四季(新ヴィヴァルディ合奏団)

山田耕筰:からたちの花 越谷達之助:初恋

ヘンデル:オンブラ・マイ・フ

ロイド・ウェッバー:ピエ・イエズ ほか

※曲目・曲順はやむを得ず変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

インターネット予約(24時間対応)

<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ ☎0570-015-415(10時~18時)

音楽堂スプリング・コンサート 藤木大地(カウンターテナー)、 新ヴィヴァルディ合奏団とともに出演

現在ウィーン在住で、いま日本でも急速に注目を集めている若手ソプラノの小林沙羅が、来たる3月13日に、カウンターテナーとしては史上初の日本音楽コンクール・声楽部門第1位で話題となった藤木大地とのデュオ・コンサートを行う。共演は新ヴィヴァルディ合奏団。CDデビューも決まり、2014年はますます飛躍が期待される小林沙羅に話をうかがった。

スイッチが入る感覚があって、私の居場所はここだという思いは小さな頃からありました。

——日本語の詩と若い作曲家による実験的な舞台もなさっていますね。

もともとは東京藝大に「現代詩研究会」というサークルがあり、私も参加していたのですが、歌だけでなく楽器の人や作曲家や研究者や美術家など、いろいろなところから言葉に興味がある人が集まっていました。メンバーの多くが卒業してからは、<VOICE SPACE>というグループとして活動しています。中原中也や宮澤賢治など、ただ詩にメロディーをつけるだけでなく、詩と音楽がどんな風に歩み寄って行けるか、面白い作品を実験できる仲間がいることは自分にとっては刺激的です。

「歌」の何が楽器と違うかといえば、言葉があることが一番違う。声だけでなく、言葉があるから意味がある。私は言葉を大切にしていきたいです。

デビューの地・音楽堂でのコンサート

——今回のコンサートはカウンターテナーの藤木大地さんと一緒ですね。

藤木さんは私と同じくウィーンに住んでいて、ウィーンではもともと先生についていました。カウンターテナーとソプラノで共演したいなという話はよくしていて、前々からレパートリーは掘り起こしていたのです。やりたいことはすでにあっただけで、プログラムは比較的すんなりと決まりました。

宗教曲でも、アルトのところカウンターテナーが入ってソプラノと一緒に歌う二重唱は結構ありますし、声質もとても合うのです。

——新ヴィヴァルディ合奏団との共演も贅沢ですね。

はい。共演させていただけるのを、とても楽しみにしています。私のデビューは神奈川県立音楽堂でのモーツァルト『バスティアンとバスティエンヌ』(バスティエンヌ役、2006年10月、井上道義指揮)ですし、それ以来8年ぶりの横浜でのステージになりますので、それとても楽しみです。

取材・文:林田直樹(音楽ジャーナリスト)／撮影:福里幸夫

わたしの神奈川

友達との記憶が多いです。高校生のときに、横浜まで出かけて仲の良い友達と五人組で買い物をしたり、中華街で食事したり。そのときのドキドキした気持ちや楽しかったことは、今でも覚えています。

大学のときには、クリスマスの時期にみんなで「第九」の合唱のエキストラとして、横浜みなとみらいホールで歌ったのも思い出です。公演の後、横浜の街がイルミネーションでキラキラしている中を歩いて帰ったり…。

横浜にはそんなキラキラしたイメージがありますね。ちょっと現実から離れて、遠出しようよというときに、東京とは違う世界に行くような感じです。



こばやし さら

東京藝術大学卒業、同大学院修了。2011年度文化庁新進芸術家在外研修員。ウィーンを拠点に海外に活動の幅を広げている。

12年、ブルガリアのソフィア国立劇場「ジャンニ・スキッキ」で欧州デビューののち、同劇場「愛の妙薬」プレミアム公演に出演、大成功を収めた。

06年10月、神奈川県立音楽堂の「井上道義のり坂コンサート「バスティアンとバスティエンヌ」」でデビューののち、国内では「こもり」、『トゥーランドット』、『ヘンゼルとグレーテル』、『フィガロの結婚』、『魔笛』、千住明・松本隆「隅田川」『源氏物語』、千住明・黛まどか「万葉集」、三枝成彰「KAMIKAZE」等に出演。サイトウ・キネン・フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、ソロリサイタル、テレビ等でも活躍。現代詩表現グループ<VOICE SPACE>に所属し、詩の朗読や日本の歌、新曲演奏にも力を入れている。

14年3月28日には、紀尾井ホール(東京都千代田区)にてソロリサイタルを開催予定。

小林沙羅デビューアルバム「花のしらべ」

ソプラノ:小林沙羅

アルバムのテーマは「花」。花にまつわる曲を集め、新世代の魅力を咲かせている。本人書き下ろしのオリジナル曲「えがおの花」も収録。

初回限定盤4,500円/通常盤2,800円(税別)

3月5日発売(発売元:日本コロムビア)

KAATでの3年を振り返って ～小説の舞台化～ KAAT×地点 新作公演『悪霊』 三浦基インタビュー

美術・照明・音響デザイナーも含め、KAATのスタッフと長期間じっくりと作品を創れたことは、私たちに多くのものをもたらしてくれました。現場で働く人数も普段より多く、それがプレッシャーにもなりますが、それをはね返した時の達成感は大きかったですね。

演出的な面で言うとこの3年間は、「小説を舞台化する」ということに徹していたんだろうと思います。小説を舞台化する時に、いわゆるシナリオ化してキャラクターを振り分けてAを演じたりBを演じたりするのが普通のやり方だとすると、この3年間で見つけた方法は、ある人物の語りを男女関係なく複数で語って、その人物のいろいろな面を代弁していくという手法でした。同じ台詞を複数で同時にしゃべることを群唱といいますが、これがなかなか難しく、幼稚になりがちです。複数で語るパフォーマンスをクオリティ高く実現させるコツは、KAATでの作業を通して見つけることができました。この経験は今後の作品創作にも生きていくと思います。

特に、今回取り上げる『悪霊』は、いろいろな主張が交錯して話がなかなか進まず、声と声だけがぶつかりあって中身がないという印象があるので、そのポリフォニック(多声的)な感じが出せれば面白いかなと思っています。

ドストエフスキー、そして『悪霊』

今回のKAATでの新作も、小説を舞台化する流れで作品を選んでいきたいとは思っていました。これまで芥川龍之介、太宰治と近代にこだわってきたこともある

ので(※)、どうせやるなら近代文学の大家であるドストエフスキーに挑戦してみようと思ったのが始まりです。

そして、ドストエフスキーの中でもなぜ『悪霊』かということ、ロシア革命前夜の大きく時代が変わる瞬間の社会や精神のゆらぎを描いている作品だからです。戯曲であれ小説であれ、主題が“革命”のものには惹かれます。ここ数年ドイツ語圏やロシア語圏の演劇を観ることや演出をする機会があって気付いたことでもあります。近代を考えるにあたって革命というのは大きな問題であると常々感じていました。日本は革命を経験していません。もし革命が起こってれば、今の社会や演劇の状況も変わっていたらと思う。そんな問題意識から、革命論に本格的に取り組んでみようかと思いました。革命論というのは空転しがちなテーマではありませんね。しかし、演劇は言葉をダイレクトに観客に届けることを試される世界なので、その言葉を現在の観客に、あるリアリティをもって届けることができれば、演劇が社会に対する態度を示せるのではないかと思います。

これから稽古が始まりますが、「国が減ぶ」「国の自死」というイメージを手がかりとして創り始めていこうと考えています。これまで地点では、チェーホフの四大戯曲を上演してきたので、ロシアのものはある普遍性を持たせて作品を創ることはできると思っています。

余談ですが、チェーホフは都市の作家という印象があるのに対し、ドストエフスキーはもっと器が大きくて何とというか、大地を感じます。ギャンブラーでもあったというめっちゃくちゃな側面もあって、そのスケールの大きさにはとても興味がありますね。

(※)KAAT・大スタジオにて、芥川龍之介原作『Kappa/或小説』(2011年)、太宰治原作『トカトントン』(12年)、同『駆込ミ訴へ』(13年)を上演。



『Kappa / 或小説』原作 / 芥川龍之介、戯曲 / 永山智行、演出 / 三浦基(2011年、KAAT・大スタジオ) ©橋本武彦



『トカトントン』原作 / 太宰治、演出・構成 / 三浦基(2012年、KAAT・大スタジオ) ©青木司



『駆込ミ訴へ』原作 / 太宰治、演出・構成 / 三浦基(2013年、KAAT・大スタジオ) ©橋本武彦

地点

多様なテキストを用いて、言葉や身体、光・音、時間など、さまざまな要素が重層的に関係する演劇独自の表現を生み出すために活動している。2005年、東京から京都へ移転。06年に「つぼ」でカイロ国際実験演劇祭ベスト・セノグラフィー賞を受賞。07年より<地点によるチェーホフ四大戯曲連続上演>に取り組み、第三作『桜の園』では代表・演出の三浦基が文化庁芸術祭新人賞を受賞した。11年にチェーホフ作品をモスクワ・メイエルホロドセンターで上演、また、12年にはロンドン・グローブ座からの招聘で初のシェイクスピア作品を成功させるなど、海外公演も行う。



三浦基



昨年7月に京都・北白川に開場した地点の制作・発表の拠点「アンダースロー」

KAAT×地点 新作公演『悪霊』

毎年横浜に長期滞在してKAAT神奈川芸術劇場のスタッフとともに新作を生み出してきた劇団「地点」。

日本文学と格闘し、小説の舞台化に取り組んできた3年間の成果をもって、2014年3月、ロシアの大作家・ドストエフスキーに挑む。

本格的な稽古開始の直前、活動拠点のある京都で代表の三浦基に構想を聞いた。

インターネット予約(24時間対応) <http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>
チケットかながわ ☎0570-015-415(10時~18時)

KAAT×地点 新作公演『悪霊』

原作：F. ドストエフスキー

演出・構成：三浦基

出演：安部聡子、石田大、小河原康二、窪田史恵、河野早紀、小林洋平
根本大介、永濱ゆう子、岸本昌也

3月14日(金)～23日(日) ※3月10日(月) プレビュー公演あり
KAAT神奈川芸術劇場・大スタジオ

※公演詳細はシアターニュース(KAAT神奈川芸術劇場)ページを参照ください。

横浜を舞台にパフォーマンスアーツで世界がつながる 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 《TPAM in Yokohama 2014》



蓮沼執太×山田亮太「タイム」(2012) photo:Takahiro Goto



範宙遊泳「幼女X」(2013) photo:amemiya yukitaka



坂本公成「灰が降る」 photo:Uupi Tirronen



上3つの写真 TPAM in Yokohama 2013 から photo:Hideto Maezawa

TPAMとは？

TPAM(ティーパム)は、舞台芸術の関係者、専門家が集まる日本で唯一の舞台芸術の国際的なプラットフォームです。今回で18回目を迎え、横浜での開催は4回目となります。

KAAT神奈川芸術劇場全館をはじめ、横浜創造都市センター(YCC)、横浜赤レンガ倉庫など、横浜の街のあちこちに同時代の舞台芸術に関わるアーティストやプロデューサー、研究者たちが国や地域を超えて一堂に会し、さまざまなプログラムを通して交流します。

TPAMには舞台芸術に関わるプロフェッショナル同士がネットワークを構築するためのプログラムと、公演を中心に誰でも参加できるプログラムがあります。

第一線で活躍中の若手ディレクターが企画する公演や、普段なかなか出会うことのない、海外の先鋭的なアーティストの公演など、さまざまな作品を観ることができます。舞台芸術に関わるプロフェッショナルは、これらの公演を観てディスカッションしたり、自分の仕事につなげ、一般の観客の方は舞台芸術シーンの最先端を感じる絶好の機会となります。

今回は蓮沼執太、範宙遊泳、エルヴィ・シレン(フィンランド)、ショーネッド・ヒューズ(イギリス)、ジョリス・ラコスト(フランス)等のアーティストが参加します。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 2014.2.8→16

《KAAT神奈川芸術劇場での主なプログラム》

開催日	公演名	会場
2月11日(火・祝)	蓮沼執太 「作曲:ニューフィル」	ホール
2月12日(水) 13日(木)	範宙遊泳 「幼女X」	中スタジオ
2月13日(木) 14日(金)	筒井潤十 新長田で踊る人々 「新長田のダンス事情」 ショーネッド・ヒューズ 「Aomori, Aomori」	大スタジオ
2月13日(木) 14日(金)	ジョリス・ラコスト 「百科全書のコラール」	未定
2月16日(日)	エルヴィ・シレン「KITE」 坂本公成「灰が降る」	大スタジオ

《その他の会場でのプログラム》
情報は随時更新中。詳細は公式HPをご覧ください。

TPAM公式ホームページ

URL <http://www.tpam.or.jp/>

神奈川 まちのプロデューサー ⑤

シネマ・ジャック&ベティ 支配人
梶原 俊幸氏

横浜市中区若葉町の「シネマ・ジャック&ベティ」は、名画座「ジャック」と新作上映館「ベティ」の2スクリーンを持つミニシアターです。前身の「名画座」時代を含めて、この地で60年以上の歴史をもつ劇場の若き支配人をおたずねしました。

シネマ・ジャック&ベティの支配人になったのは2007年のことです。大学を出てライブハウスやIT企業に勤めましたが、その間にボランティアとして黄金町エリアの街づくりに関わるうちに、この映画館の前運営会社から引き継がないかと提案があり、僕たちがやらなければこの歴史ある映画館が消えてしまうかもしれない、引き受けることを決めました。

生まれたのは現在のKAATが建つエリアにあった警友病院。吉祥寺で育ちましたが、母の実家が黄金町駅から2つ隣の戸部駅にありましたから、横浜には子どもの頃からよく遊びに来ていました。山下町、元町、馬車道、伊勢佐木町……と、コンパクトな中にいろいろな特徴をもった街があり、それぞれにその街

らしい人がいることが、横浜の総合的なブランド力になっているのではないかと思います。黄金町エリアには老舗の料理店も多く、横浜橋やイセザキモールなど商店街も近いので、みなさんにはぜひ街ごと楽しんでいただきたいですね。

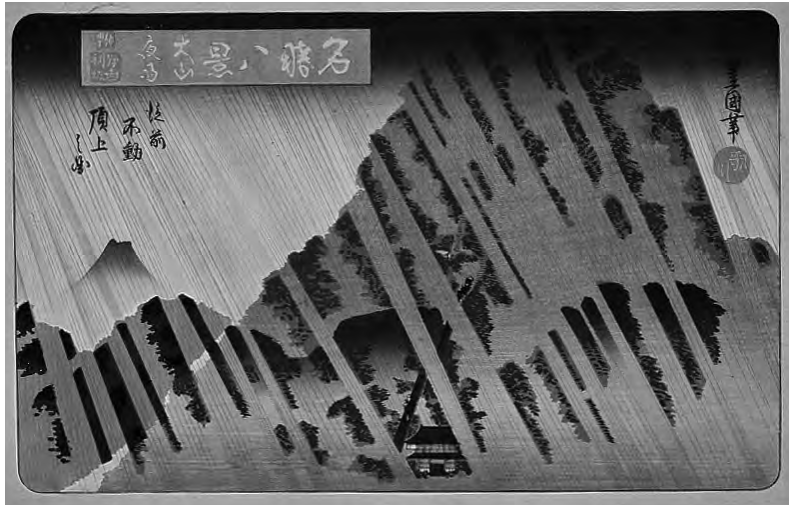
横浜には古くからの映画ファンが多く、この街ではうちでしか見ることのできないラインナップを楽しむに通ってくださるのは本当にありがたいことです。同時にこれからの課題は、映画館離れの傾向にある若者をどう呼び戻すかです。手軽にどこでも映像を楽しめるようになった今こそ、映画館に足を運んで多くの人と場を共有し、ライブ感を楽しむことのすばらしさを伝えることができると思います。映画の魅力を伝えるために、イベントに参加して出張上映に出かけたりもしています。

横浜にはいろいろな施設やフェスティバルがあり、街ごとのお祭りも盛んです。いつか、点在するそれらを線で結び、波を作っていくようなことができたらいいと思っています。



街道でたどるエリア紹介

丹沢・大山 [矢倉沢往還・大山道編]



二代豊国「名勝八景大山夜雨 従前不動頂上図」(昭和期の印刷物) 資料提供:伊勢原市教育委員会教育部文化財課

「丹沢・大山エリア」には、矢倉沢往還や大山道が通っています。丹沢山地を背後に控え、相模川中流域に面した厚木は、現在の国道246号線の前身である矢倉沢往還の継立場であり、相模川の河川交通と合わせて、地域経済の中核として栄え、その賑わいは「小江戸」と称される程でした。

一方、丹沢山地の南端に位置し、尖った山容を持つ大山は、遠方からでも容易に識別でき、古くから山岳信仰の対象となっていました。特に雨・水に関する霊験が強いとされ、夏の山開きの間には、矢倉沢往還の伊勢原から分岐する大山道を通り、江戸や周辺地域から多くの人々が参詣しました。

監修:齊藤 司(横浜市歴史博物館)

1 秦野市文化会館

1月19日(日) 15:00 大ホール
森麻季(ソプラノ)&福井敬(テノール)ゴールデン・デュオwith新ヴィヴァルディ合奏団
「私の公爵さま」「女心の歌」「乾杯の歌」他
全席指定 S4,000円 A3,000円
3月1日(土) 18:00 大ホール 加山雄三53rdホールコンサートツアー"MESSAGE"
全席指定7,000円 お問い合わせ:☎0463-81-1211

2 厚木市文化会館

2月2日(日) 13:00・16:00 大ホール
しまじろうコンサート おとぎのくにのだいぼうけん 全指定席1,900円
3月21日(金・祝) 14:00 小ホール
あつぎ寄席「桂歌丸一門会」名人・歌丸の至芸と一門の落語でお楽しみ
全席指定 前売3,000円 当日3,500円
お問い合わせ:☎046-224-9999(10:00~18:00 休館日除く)

3 愛川ソーラーパーク“さんてらすTOBISHIMA”

最大出力1,896 kWの、神奈川県初のメガソーラー。横浜スタジアム約2.5個分の広さの敷地に約8,000枚の太陽電池パネルを設置し、一般家庭約520軒分の電気を作ることができます。13箇所ある水力発電所に続き2013年5月に運転を開始した県営14箇所目の太陽光発電所です。太陽光発電設備の周辺は、ツツジ庭園や芝の散歩道、展望広場となっていて、自由に見学することができます。 開所:9:00~17:00(3月31日までは10:00~16:00) 休所:毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 無料 見学のお問合せ:☎042-768-0222 かながわ水・エネルギーサービス

4 大山阿夫利神社

大山は、またの名を「あふり山」といいます。「あふり」の名は、常に雲や霧を生じ、雨を降らせることに由来すると言われています。阿夫利神社は、古代からこのあたりに住む人たちの心のよりどころとなり、国を護る山・神の山として崇められてきました。雨乞い・節分祭・立身出世・山開きなど、古い信仰と伝統に守られた神事や、神にささげられる神楽舞・神事能・狂言などが昔のままに伝承されているのも、この神社の特徴です。2月3日の節分祭では、午前・午後の2部に分けて豆撒きが行われます。 お問い合わせ:☎0463-95-2006

その他の県内文化情報

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

定期演奏会 会場:横浜みなとみらいホール
第296回 2月22日(土) 14:00開演
指揮:飯守泰次郎
ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」より前奏曲と愛の死
ブルックナー/交響曲第7番
第297回 3月20日(木) 19:00開演
指揮:金聖響
藤倉大/アトム マーラー/交響曲第6番「悲劇的」
※相模女子大学グリーンホールで同プログラム公演あり(3月21日)。
各回 S6,000円 A4,500円 B3,000円 学生席(B)1,000円
お問合せ:神奈川フィル・チケットサービス
☎045-226-5107(平日10:00~18:00)
http://www.kanaphil.or.jp/

県立神奈川近代文学館

企画展・収蔵コレクション展13
「生誕90年 黒岩重吾展」
同時開催「文学の森へ 神奈川と作家たち」展
第3部 太宰治、三島由紀夫から現代まで
館蔵の貴重コレクションで構成する資料展。直木賞受賞作「背徳のメス」など社会派推理、風俗小説を多数執筆し、後半は古代史を中心に歴史小説の分野で活躍した黒岩重吾(1924~2003)の初の回顧展。
2月1日(土)~3月30日(日) 第2,3展示室 ※月曜休館
一般400円 65歳以上・20歳未満・学生200円
高校生100円 中学生以下無料
神奈川県横浜市中央区山手町110
(みなとみらい線「元町・中華街駅」6番出口徒歩10分)
☎045-622-6666 http://www.kanabun.or.jp/

神奈川県県民局くらし県民部文化課

マガル・三塔+Oneイベント
歴史的建造物を活用した横浜エリアの賑わいづくりの取組み。
「三塔の日」(3月9日)に、神奈川県庁舎公開と併せて、三塔+Oneの回遊をお楽しみいただけるよう、各会場で神奈川フィルによるコンサート等を開催。
3月9日(日) 時間未定(会場ごとに時間が異なります)
会場:キングの塔(神奈川県庁本庁舎)、クイーンの塔(横浜税関)、ジャックの塔(横浜市開港記念会館)、エースのドーム(県立歴史博物館)
観覧無料
お問合せ:文化課文化事業グループ ☎045-210-3808
※詳細は2月1日(土)以降、次のHPをご覧ください。
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f500342/

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員 法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング / 株式会社浅岡装飾 / アサヒビル株式会社 / 株式会社アサヒファシリテイス / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 有限会社エス・イー・オー
株式会社エス・シー・アライアンス / 株式会社NHKアート / 株式会社オーチュール / 株式会社勝烈庵 / 公益財団法人神奈川県結核予防会 / 神奈川県信用保証協会 / 神奈川県民共済生活協同組合 / 株式会社神奈川孔文社 / 株式会社神奈川保健事業社
神谷コーポレーション株式会社 / カヤバシステム マシナリー株式会社 / 川本工業株式会社 / かをり商事株式会社 / 株式会社共栄社 / 株式会社キョウエイ装飾 / 株式会社KSP / 株式会社合同通信 / コトブキシーティング株式会社 / 株式会社さがが美
株式会社ジェイムアンドカンパニー / 株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局 / 鈴鹿かまぼこ株式会社 / 生活協同組合バルシステム神奈川ゆめコープ / 生活協同組合ユーコープ / 生活クラブ生活協同組合
株式会社清光社 / 株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ / 月島機械株式会社 / 株式会社テレビ神奈川 / 株式会社東急エージェンシー / 東工株式会社 / 東神工芸株式会社 / ナイス株式会社 / 奈良建設株式会社 / 株式会社日建設
日産自動車株式会社 / 日生商工株式会社 / 株式会社野毛印刷社 / パナソニックESエンジニアリング株式会社 / 株式会社日立システムズ / 平安堂薬局 / 株式会社ホテル・ニューグランド / 一般社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社
三沢電機株式会社 / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商會 / 株式会社ユニコーン / 株式会社横浜アーチスト / 横浜エレベーター株式会社 / 横浜新都市センター株式会社 / 横浜信用金庫
株式会社横浜ステーションビル / 横浜ビルシステム株式会社 永年個人賛助会員 江田眞子 / 川村恒明 個人賛助会員 大島正博 / 岡田博子 / 金子祐子 / 黒瀬博晴 / 本田正男 / 三角京子 / 三角秀行
協賛・協力 能舞台協賛 ナイス株式会社 音楽堂施設協賛 コトブキシーティング株式会社 協力 神奈川総合設備株式会社 / 神奈川トヨタ自動車株式会社 / 崎陽軒 / 鈴鹿かまぼこ株式会社 / 株式会社東芝 首都圏南支社 / 株式会社野毛印刷社
野村證券株式会社横浜支店 / 三菱地所株式会社 (匿名:1社、1名) (敬称略 2013年11月30日現在)

賛助会員募集のご案内 公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員の制度を設立し、広くみなさまのお力添えをいただいております。お問い合わせ:公益財団法人神奈川芸術文化財団 広報営業課 ☎045-633-3760



神奈川県立音楽堂のアウトリーチ活動

全国各地の音楽ホールでは近年、コンサートを楽しんでもらうだけでなく、学校や施設に出かけて出前演奏会をしたり、ワークショップを開いたりする「アウトリーチ活動」が増えています。音楽堂でもアウトリーチに力を入れて音楽の楽しさを若い世代に伝える取り組みを行っています。昨年秋のプロジェクトを取材しました。

小学校のパーカッションアウトリーチ

体育館に集まった全校児童約200人を前に、パーカッショニスト神田佳子さんと2人の奏者が、さまざまな種類の打楽器を使って音とリズムの体験演奏。児童たちも、手拍子や「カエルのかたちの木魚」の合奏で演奏に参加しました。「楽器を演奏したい人!」「感想を言ってくれる人!」と呼びかけると、次々に手が挙がる元気いっぱいの子どもたち。この楽しさをずっと覚えていてくださいな。



横浜市立千秀小学校にて。講師は、左から、平野有希子、若須久美子、神田佳子の各氏。

音楽堂「メサイア」未来プロジェクト 高校生の合唱練習

昨年12月に行われた「メサイア」全曲演奏会に参加する高校生たちの合同練習。1か月前の初練習とはいえ、暗譜している生徒もいるほど歌い込んでいる部員たち。県合唱連盟理事長・松村努先生から英語の発音や音程の取り方を具体的に指導されると、即座に音が変わっていきます。本番も大成功でした。



2013年12月15日に行われた「メサイア」全曲演奏会。高校生たちは「ハレルヤ・コーラス」と第3部の合唱に参加しました。

参加したのは、県立生田高校、県立海老名高校、県立湘南高校、県立大和西高校の合唱部。

もっと、もっとアート。

が〜まるちよば サイレントコメディ JAPAN TOUR 2014

決して舞台でしか味わえないライブ感あふれるコメディ。今回の新作長編は、なんと「ラブ・コメディ」。

1月31日(金)〜2月2日(日)
KAAT神奈川芸術劇場・ホール
全席指定
S席(1・2階席)5,000円
A席(3階席)4,500円
作・演出・出演:
ケッチ! / HIRO-PON
(が〜まるちよば)



神奈川県民ホール出張公演 in はしもと アンサンブル・リリ リサイタル

ワンコイン! 休憩なし、約1時間のコンサート。みずみずしい演奏をお楽しみください。

3月3日(月)
社のホールはしもと・ホール
全席指定
500円
出演: アンサンブル・リリ



とりふね舞踏舎

「献花」
寒立馬シリーズVol.VI「H-Sai-」

「献花」4月2日(水)〜3日(木)
出演: 三上賀代 工藤文輝、若林淳(友情出演) 他
「H-Sai-」4月5日(土)〜6日(日)
出演: 湘南舞踏派 平安舞踏派 三上賀代
KAAT神奈川芸術劇場・大スタジオ
一般前売3,500円・学生前売3,000円
2公演通し券 一般6,000円 学生5,000円



「献花」撮影: Andre Chambat

音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ第10弾 アンドラーシュ・シフ ピアノリサイタル

「至高の精神の輝きを映し出す」シフの世界。

3月21日(金・祝)
神奈川県立音楽堂
全席指定
一般7,000円
シルバー(65歳以上)売切
学生(24歳以下)売切
ピアノ: アンドラーシュ・シフ



András Schiff ©Nadia F.Romanini

Char 2014 TRADROCK Tour 横浜Special

名実共に日本のロックギタリストの最高峰。アコースティック&エレキで魅せる迫力のライブ!

3月22日(土)
KAAT神奈川芸術劇場・ホール
全席指定
5,500円(税込)
出演: Char



デフ・パペットシアター・ひとみ 『森と夜と世界の果てへの旅』

人形劇が持つ「視覚的」な魅力に着目し、新しい表現の可能性に挑戦し続ける人形劇団。

3月28日(金)〜3月30日(日)
KAAT神奈川芸術劇場・大スタジオ
出演: デフ・パペットシアター・ひとみ
脚本: 小池博史
(小池博史ブリッジプロジェクト)
演出: くすのき燕(人形芝居居屋)
全席自由 3,000円 こども(中学生以下)2,000円



撮影: 山崎和男

チケットのお求めは

インターネットチケット予約(24時間受付)
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ 0570-015-415(電話10:00~18:00)
(芸術劇場窓口10:00~18:00 / 音楽堂窓口13:00~17:00休)

編集後記

- 横浜港の大晦日は、停泊している船舶の一斉汽笛で新年を迎えます。リハーサルで鳴らしすぎて、本番で音が出ないこともあったそうですが?!、寒いけれど港町を実感する瞬間です。(k)
- 「まちのプロデューサー」の取材に伺った「シネマ・ジャック&ベティ」の周辺は、昭和の趣を残した懐かしい雰囲気の街並み。今度はイセブラがたら映画を見に行きたいです。(あ)
- アウトリーチ取材で千秀小学校へ。来客用の下駄箱の中に子供たちからのメッセージがあり感動!素直に音楽を聴いて楽しむ子供たちの姿を見て、音楽の力を感じた1日でした!(ゆ)



KAAT神奈川芸術劇場 ☎0570-015-415 (チケットかながわ) <http://www.kaat.jp/>

女流義太夫 竹本駒之助公演
第二弾「太平記忠臣講釈」七段目「書置の段」
 2月1日(土)～2日(日)
 「太平記忠臣講釈」は、近松半二が描いたいわば、くもうひとつの忠臣蔵。伝承者が少なく、上演頻度も稀な本作を、KAATならではの空間でご堪能ください!

出演: 竹本駒之助(太夫) 鶴澤津賀寿(三味線)
 お話: 神津武男(早稲田大学・招聘研究員)

急な坂スタジオ ホール

☎045-250-5388 <http://kyunasaka.jp/>

きたまり+Offsite Dance Project

共同プロデュース
多田淳之介『RE/PLAY(DANCE Edit.)』
 2月14日(金) 15:00、15日(土) 15:00、16日(日) 17:00
 多田淳之介(演出家、俳優)が率いる東京デスロックが2011年に発表した演劇作品をベースに、俳優をダンサーに置き換えて創作する試みの第二弾です。
 前売: 一般2,500円
 学生・シニア(65歳以上)・TPAMバス割引2,000円
 当日: 上記料金各+500円



神奈川県立歴史博物館 ☎045-201-0926 <http://ch.kanagawa-museum.jp/>

「特別陳列 真鍮焼一田邊哲人コレクションと館蔵の名品」
 開催中～3月2日(日)

「平成25年度 かながわの遺跡展 地中に埋もれた江戸時代の道具たち」
 開催中～2月23日(日)

開館: 9:30～17:00(入館は16:30まで)
 休館: 月曜日(祝日の場合は開催)
 観覧料: 常設展観覧料(20歳以上300円、学生・20歳未満200円、高校生100円、中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方無料)



高浮彫牡丹に龍猫寛政蓋付水指 (初代宮川香山作/明治時代前期/田邊哲人コレクション)



(横浜市在住カメラマン)
 森日出夫さんの写真でめぐる「私だけが知ってる横浜」。

横浜情景

中区・北仲通地区にある帝蚕倉庫は、横浜に集まる蚕糸荷物を一括して管理した専用倉庫です。設計は横浜ゆかりの建築家・遠藤於菟。関東大震災からの再建を目的に、現存する事務所棟や生糸検査所などとともに1926(大正15)年に完成し、貿易港・横浜の中心的存在となりました。レンガ貼りで統一された倉庫群のうち一棟残ったこの建物は、ここだけ時間の止まったようなノスタルジーを感じさせる歴史的建造物です。



MAGCUL.NET 神奈川県発、文化発信ポータルサイト、MAGCULドット ネット

KAME KANAGAWA members 登録無料! メルマガ定期配信

県内のアート情報はここで探そう!
<http://www.kanagawa-at.info/>
 「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

あなたが支える。あなたが楽しむ。あなたとつくる、神奈川の芸術と文化。

公益財団法人 神奈川芸術文化財団 『賛助会員』募集中!

当財団では賛助会員制度を設立し、神奈川の芸術文化を支えるために法人・個人の皆様から広くお力添えをいただいております。

～個人会員:年間3万円から、法人会員:年間10万円から～

詳細は<http://www.kanagawa-arts.or.jp/support/support.html>をご覧ください。

お申込み・お問合せ: 広報営業課 ☎045-633-3760

神奈川芸術文化財団 指定管理施設

